



平成 19 年 9 月 12 日

各 位

会社名 株式会社ファーマフーズ
代表者 代表取締役社長 金 武祐
(コード番号: 2929 東証マザーズ)
問合せ先 経営企画部部长
皿谷 和久
(電話番号: 075-394-8600)

中期経営計画に関するお知らせ

株式会社ファーマフーズでは、この度、平成 19 年 8 月から平成 22 年 7 月末までの中期経営計画を策定しました。

当社は、昨年 9 月発表の中期経営計画に基づき、

- 1、海外営業展開の本格始動と国内営業の拡大
 - 2、次世代製品開発の本格展開と機能性素材部門の開発事業の推進
- 以上の2つのテーマを柱として事業展開を推進してまいりました。

その結果、平成 18 年 8 月からの 1 年間において、営業面で当社素材 PHARMA GABATM が米国 FDA の GRAS を取得、その成果をもとに米国飲料メーカーのジョーンズ・ソーダ社との業務提携を締結しました。また、焼津水産化学工業との業務提携を締結し、中国での機能性素材の製造と販売の展開を進めました。次に開発面では新本社研究所のオープンや、バイオメディカル部門の事業展開として関連会社・株式会社広島バイオメディカルを設立するなどの一定の実績をみました。

平成 19 年 8 月をスタートとする中期経営計画では上記の2つのテーマに変更はありませんが、平成 18 年 8 月からの 1 年間の実績を踏まえて、一層の事業拡大・収益向上を目指すため、昨年 9 月に発表いたしました中期経営計画を再検討して、新たな 3 年間の取り組み方針といたします。

1、海外営業展開の本格始動と国内営業の拡大

(1) 海外営業展開の本格始動

新たな市場の開拓

海外営業の最大の課題でありますアメリカでのビジネス展開について、平成 19 年 3 月にサプリメント用途での取り扱いが開始、平成 19 年 6 月に当社 PHARMA GABATM が米国の FDA が定める Self-Affirmed GRAS を取得したことに続いて、同月に米国・ジョーンズ・ソ

ーダ社(アメリカ 社長 ピーター・ヴァン・ストーク)との間で業務提携を締結しております。今後も引き続き、大きな市場をもつアメリカでの事業展開をすすめます。

また、急速に市場拡大している中国本土での営業展開については、当社素材の原料登録をすすめており今年中の許可取得を目指しています。既に、上海等で開催される展示会にも参加し、乳業メーカー・飲料メーカーを中心とした営業を開始しており、平成20年7月期中での本格的な営業実績を目指しています。

次に、中近東のサウジアラビア、エジプトについても機能性製品の発売に向け、食品素材の販売のための登録手続きをすすめており、平成20年7月期中の販売開始を見込んでおります。

既存市場での深耕

韓国市場はここ数年売上横ばいの状況が継続していましたが、平成18年7月期より韓国国内の営業人員を確保、また、休眠会社でありました関連会社を再開し、早期での売上伸張を図ります。既に今秋からの韓国・大手乳業メーカーでの新製品への鶏卵抗体採用が決定しており、また、年内での葉酸たまごの展開も見込まれております。当社創業期に主要なマーケットでありました韓国市場の拡大を目指します。

次に、台湾市場についても、平成19年6月にギャバに関する研究会が発足しギャバの認知度が急速に向上しています。その結果、飲料メーカー、サプリメントメーカー等からギャバが採用された新製品が順次発売されており、引き続いてのマーケット拡大を図ります。



(2) 国内営業の拡大

平成19年7月期においては、大手飲料メーカーへの製品納入が遅れたこと等により前期比売上が減少しましたが、今夏になり飲料メーカー・菓子メーカー等より新製品が順次発売されるなどの実績をみております。次に組織面でも、現在、社内体制の強化及び外部協力企業との関係強化を図っております。

また、当社主力製品であります鶏卵抗体、ギャバに続いて葉酸たまご、ボンペップ、ランペップを基幹製品とするべく、飲料メーカー・食品メーカーへの営業展開を進めております。

当3ヵ年におきましては国内市場を基盤収益を支える主要なマーケットとして着実な営業実績を図りながら、営業体制の整備と新製品の発売等により一層の市場拡大を目指します。

2、次世代製品開発の本格展開と機能性素材部門の開発事業の推進

研究開発事業は現在、対売上高比20%程度の研究開発費を投じている当社事業の根幹であり、また、現在・将来の当社収益の源泉と考えております。

研究開発の拠点として平成18年5月に京阪奈研究所(京都府木津町)を開設、平成18年9月に新本社研究所(京都市西京区)をオープンさせました。また、平成19年4月には広島大学大学院生物圏科学研究科の松田治男教授との共同出資による関連会社・株式会社広島バイオメディカルを設立しました。松田教授は鶏卵抗体のモノクローナル化・ヒト化技術ならびにトランスジェニックチキン技術を持つ有数の研究者で、新会社では鶏卵抗体による血液浄化療法分野での研究開発事業の本格的展開と、検査薬・試薬分野への事業展開を目指しております。当社では、これら3つの研究開発拠点により、現状の基盤収益源である機能性食品分野の拡大と検査薬・医療食・メディカルデバイス製品などの次世代製品の研究開発事業の進展を図ります。

【研究開発投資】

単位:百万円

第9期(実績) (平成18年7月期)	第10期(実績) (平成19年7月期)	第11期 (平成20年7月期)	第12期 (平成21年7月期)	第13期 (平成22年7月期)
222	285	291	339	367



新本社研究所



京阪奈研究所(ロートリサーチビレッジ内)



広島バイオメディカル(広島大学MO棟内)

(1)次世代製品開発の本格展開

次世代製品の開発事業として、検査薬・診断薬分野、医療食分野、メディカルデバイス製品・医薬品分野の3分野での研究開発を実施しており、それぞれ3年間から8年間での開発を目指しています。

検査薬・診断薬分野

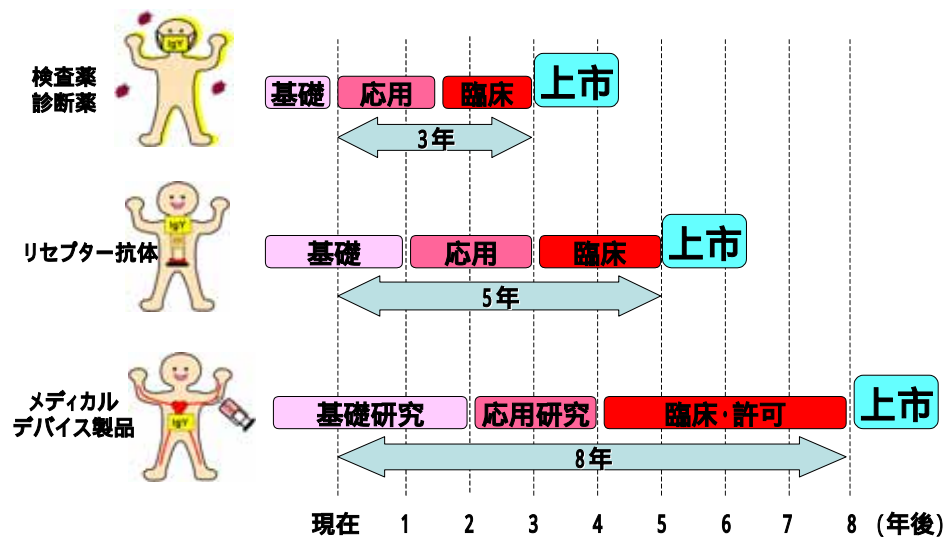
鶏卵抗体を用いた検査薬・診断薬の開発については、唾液を用いた簡易診断キットと、広島バイオメディカルでのモノクローナル抗体を用いた試薬・診断薬の事業展開を図ります。診断キットについては、胃潰瘍の原因菌であるヘリコバクター・ピロリ菌に対する次世代の認識抗体により、キットの開発だけでなく食品分野への応用も目指しています。また、モノクローナル抗体を用いた試薬・診断薬についても、広島バイオメディカルにおいて、既に実用化技術が完了しており、早期での販売実績を目指します。

医療食分野(リセプター抗体)

複数のリセプター(受容体)に対する抗体の検討をしており、リセプターの特定部位にのみ強い活性をもつ抗体をつくるため、抗原となるリセプターの探索や抗原の作成を実施しております。

メディカルデバイス製品分野

血液浄化システムについて、血中成分の調査から具体的な血液中での免疫反応による異物・不要物除去の効果等の実用化に向けた基礎研究を実施しています。



平成 18 年 9 月 13 日発表の中期経営計画より

本分野については、外部協力企業や大学等の外部研究機関との共同研究、関連会社・広島バイオメディカルとの取組を強化した研究開発を進めております。

(2)機能性素材部門の新規商品の開発

基盤収益事業である機能性素材部門については、今期新たに新素材・卵白ペプチド(製品名:ランペップ Runpep®)を発売し、主に飲料メーカーへの営業展開を進めております。また、継続して既存製品についても新たな機能性の発見等のアプリケーション開発を行い、第10期中において日本栄養食糧学会大会、日本農芸化学会大会等で16題の研究成果を発表しております。特にギャバ、鶏卵抗体に続く主力製品として、葉酸たまご、ボーンペップ、ランペップの本格的な事業化を目指します。

3、業績目標

第13期(平成22年7月期)業績目標

- ・売上高22億円
- ・経常利益3億円

当3ヵ年における当社の業績目標については、海外営業展開の一層の拡大と国内営業の着実な実績を見込んでおります。

一方、収益面では売上増加による売上総利益増加に対して、京阪奈研究所、新本社研究所等の取得による減価償却費の増加や研究部門を中心とした人員増加、海外のレギュレーション(規格)取得のための手続き費用等による販売費及び一般管理費の増加により、経常利益では第11期11百万円、第12期177百万円、第13期358百万円と順次改善を図ります。

【業績目標】

単位:百万円

	第10期(実績) (平成19年7月期)	第11期 (平成20年7月期)	第12期 (平成21年7月期)	第13期 (平成22年7月期)
売上高	1,107	1,455	1,920	2,240
営業利益	162	35	132	313
経常利益	118	11	177	358
研究開発費	285	291	339	367

当資料取り扱い上の注意点

当資料には、株式会社ファーマフーズの業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予測に関する記述および資料は、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来的予測と異なる結果になることがある点を認識した上で、ご利用ください。

【用語解説】

モノクローナル(抗体)・・・免疫作用として、体内に進入してくる病原菌等の抗原に対しては、たとえ同じ抗原を認識する抗体を集めてとしても、抗原のいろいろな部位を認識する抗体が混ざった状態で集められる。このように同一でない抗体が多数混ざっている集合体をポリクローナル抗体(ポリ=「多くの」の意)という。それに対し、均一の抗体をモノクローナル抗体(モノ=「ひとつの」の意)という。

ヒト化技術・・・ニワトリ由来の抗体はヒトにとっては異物であるので、血中に投与するとニワトリ抗体に対する抗体が産生されてしまうため、そのままでは血液浄化療法用素材としては使用できない。そこで遺伝子工学技術を用い、異物であるニワトリ抗体に由来するアミノ酸配列をヒト由来のアミノ酸配列に置換する技術。

FDA・・・アメリカ・食品医薬品局のことで Food and Drug Administration の略。食品や医薬品を管轄するアメリカの政府機関。日本では厚生労働省に相当。

GRAS・・・Generally Recognised As Safe の略。「(食品などに用いる上で)一般に安全と認められるもの」の意。FDAの指定する専門機関による認可制度。